



FAST RETAILING

www.fastretailing.com



BUSINESS REVIEW 2025

第2四半期累計ビジネスレビュー

2024年9月1日～2025年2月28日

株式会社 ファーストリテイリング



代表取締役会長兼社長

柳井 正

Tadashi Yanai

新たに挑戦する年

ファーストリテイリングにとって、今年は真のグローバルブランドとなるために、新たな一歩を踏み出す年です。私たちが掲げるLifeWearへの理解と支持が世界中で一段と高まり、グローバルで収益を着実に上げられる体制がより強固になりました。しかし、世界最高のブランドになるという目標に向けて、本当の勝負はこれからです。次のステージへ向かうために、「すべてはお客様のために」という商売の原点を忘れることなく、過去のやり方を大胆に見直し、一から新たな挑戦を始めます。

この上期は、売上収益1兆7,901億円、前年同期比12.0%増、営業利益3,042億円、同18.3%増と、過去最高の業績を達成しました。日本、東南アジア、北米、欧州のユニクロ事業は、大幅な増収増益と事業拡大が継続しています。一方、中国大陸のユニクロ事業、ジーユー事業は減益となりました。両事業とも、次の成長ステージに進むための変革期にあります。

チェーンストア展開により、事業を拡大してきた中国大陸のユニクロ事業ですが、ここからは「個店経営」をさらに強化していきます。中国大陸は国土が広く、気候や文化、習慣が地域に

よって異なるため、それぞれの店舗がお客様と真摯に向き合い、真にお客様が求める商品構成、売場づくりを店舗ごとに行っていきます。

ジーユー事業は、ユニクロと同様な成長の可能性があります。確固たるブランドポジションを築くために、ジーユーのブランド価値を、より明確にする必要があります。そのために、ファーストリテイリング全体でジーユーに経営資源を投入し、経営体制を強化します。まだ多くの課題がありますが、それぞれの課題を直視し、一つひとつ解決しながら、新たに挑戦することで、今よりもさらに高い次元に成長できます。

我々の商売の究極の目的は、「自らの商売を通じて社会を良くしていく」ことにあります。昨今、国家間の政治的対立や戦争など、国際社会は危機的な状況に直面しています。さまざまな困難はありますが、世界経済の一体化が進み、国際社会は、より平和で繁栄できると、私は確信しています。世界中のお客様の役に立つ商売をしていくことで、世界は良い方向へ変わっていくと思います。お客様のために、商売のつくり出す価値を信じて、これからも挑戦を続けていきます。



2025年8月期の連結業績予想

売上収益

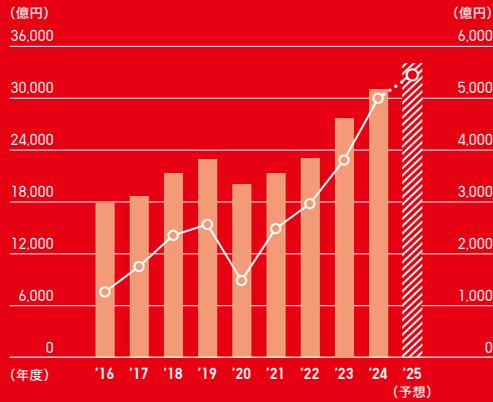
3兆4,000億円

営業利益

5,450億円

連結の売上収益と営業利益の推移

■ 売上収益(左軸) ○ 営業利益(右軸)



▶ 2025年8月期 上期連結実績

連結の売上収益は1兆7,901億円、前年同期比12.0%増、営業利益は3,042億円、同18.3%増と大幅な増収増益。上期は、国内ユニクロ事業や、東南アジア・インド・豪州地区、北米、欧州のユニクロ事業が大幅な増収増益と、好調な業績となったことで、グループ全体で過去最高の業績を達成。

▶ 2025年8月期 通期連結業績予想

売上収益は3兆4,000億円、前期比9.5%増、営業利益は5,450億円、同8.8%増と過去最高を見込む。上期の業績の上振れを反映し、通期の営業利益は150億円増額修正。中間配当金240円を含み、年間配当金は1株当たり480円、前期から80円の増配を見込む。

ユニクロ UNI QLO ユニクロ事業

国内ユニクロ 大幅な増収増益

気候に合わせて戦略的に商品とマーケティングを展開し、通年商品や防寒衣料を中心に販売が好調だったことに加え、インバウンド販売も拡大したことで、既存店売上高は増収。売上総利益率、売上高販管費比率がともに改善したことで大幅な増益。

海外ユニクロ 大幅な増収増益

東南アジア・インド・豪州地区、北米、欧州は、大幅な増収増益と好調。グローバルでコア商品に対する支持が高まっていることに加え、欧米を中心に新規出店が大成功。グレーターチャイナは、消費意欲の低下や天候不順の影響を受け、売上収益は前年並み、営業利益は減益。事業構造改革を着実に進め、業績回復を図る。



2024年9月にロンドンにオープンしたユニクロ コール・ドロップス・ヤード店

GU ジューユー事業

増収も、営業利益は減益

ハレルレグパンツ、ヒートパデッドアウターの販売は好調でしたが、マストトレンドを捉えたヒット商品の不足や売れ筋商品の欠品により、既存店売上高は若干の増収にとどまる。米国の旗艦店出店に伴う賃借料、本部費などの販管費が増加し、営業利益は減益。今後は組織体制を強化し、ブランドポジションの確立を図る。

TOPIC

出店トピックス



新たなグローバル旗艦店
「ユニクロ 新宿本店」をオープン

2024年10月25日、国内最大級のグローバル旗艦店「ユニクロ 新宿本店」をオープンしました。新宿エリア全体を活気づけ、街の人々にとっての一番店になり、世界一の売上をめざす、という決意を込めて、世界で初めて「本店」と名付けました。

売場面積約1,200坪を誇る店舗では、ユニクロだけでなく、グループブランドのPLST(プラステ)やコントワー・デ・コトニエ、プリンセス タム・タムの売場も併設し、ユニクロとは一味違うファッションをお楽しみいただけます。UNIQLO COFFEE、RE.UNIQLO STUDIO(リペアやリメイクなどのサービスを提供)、UNIQLO FLOWERも設置し、より楽しいお買い物体験をお届けしていきます。



ユニクロ メモリアル・シティ・モール店



ユニクロ ガレリア・ダラス店



UT売場では、テキサス州の店舗限定Tシャツなどを販売。ダラスやヒューストンをモチーフとしたデザインや、テキサスの文化に日本らしさをミックスしたデザインのUTme!が大人気です。

UNIQLO FROM TOKYO TO TEXAS

北米はさらに飛躍 テキサス州へ初進出

LifeWearへの支持が、北米でも高まっています。2025年8月期上期は、大幅な増収増益を達成しました。戦略的に売り込んだカシミア、パフテックを中心に販売が好調で、顧客層がさらに拡大しています。初進出したテキサス州で大成功を取めたことも、事業拡大の弾みとなりました。2024年10月のヒューストン1号店出店をはじめ、ダラスにも出店し、計5店舗を同時期にオープンしました。新店舗への期待を盛り上げるために、オープン前に、期間限定のポップアップイベントを開催。地元の著名アーティストや企業にも協力いただき、UTme!のテキサス州限定デザインを制作し、大変好評でした。5店舗すべてで計画を上回る販売となり、なかでも

テキサス州1号店のユニクロ メモリアル・シティ・モール店では、オープン当日に1,000人を超える行列ができるなど、大盛況でした。

テキサス州のお客様は多様性に富んでおり、次の新規都市への重要な足掛かりになります。この成功を活かして、北米事業の拡大の勢いを加速させていきます。



(2025年2月末)

UNIQLO Masterpiece

普段着を、もっと良い服へ。



ポケットブルUVカットパーカ

強い日差しや急な小雨にも対応できる、ユニクロのロングセラー商品です。今年はブルーやピンクなど、春夏らしい色が新登場しました。

Point

1

いつも持ち歩きたくなる軽さ



300mでたった約1gの軽量極細糸を使用することで、持ち運ぶ際に負担にならない驚きの軽さを実現。畳んで付属のポーチに入れることで、手のひらサイズに収まり、バッグの中でも場所を取りません。通勤通学、お出かけ、旅行や出張など、いつも持ち歩きたくなる軽さとコンパクトさです。

LifeWearのものづくりの姿勢、細部の工夫、素材へのこだわりを
ご覧いただけます。



Point

2

撥水機能を追求

小雨に対応できるように、生地表面に耐久撥水加工を施しています。今春夏は、メンズ商品は、蓮の葉から着想し、糸の形状を工夫。生地の表面に凹凸を増やし、撥水剤の機能が効果的に発現する構造に改良。ウィメンズ商品は、葎あしに着目。極小の凹凸を繊維で再現。水滴と生地の接触を減らすことで、水滴を速やかに流します。



服のチカラで より良い未来へ

人々の生活をより良くするために、ユニクロは何か出来るだろう？
その答えの一つが2024年の冬にスタートした「The Heart of LifeWear」です。これは、世界の難民や子どもたち、災害被災者など、困難な状況下にある人々の生活を支援するために、合計100万点のヒートテックを寄贈する活動です。ユニクロ グローバルブランド アンパサダーや、ヒートテックを共同開発する国際的な素材メーカー東レグループにも、寄付活動に協力いただいています。2024年10月のモルドバ共和国に暮らすウクライナ難民などへの寄贈をはじめ、12月には綾瀬はるかさんが、石川県輪島市を訪問し、能登半島地震の被災者に約4万5千点を届けました。2025年1月には、米国カリフォルニア州ロサンゼルス郊外で起きた大規模な山火事の被災者への緊急支援として、近隣のユニクロ5店舗でヒートテックなどを無料配布しました。2月には、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）とともに、ヨルダンに約53万点のヒートテックを届けました。今後も服のビジネスを通じて、社会的、経済的に困難な状況に置かれた方々への支援に取り組んでいきます。



上：綾瀬はるかさんが能登半島地震で被災された方々と交流し、ヒートテックをお届けする様子。左下：モルドバ共和国に逃れたウクライナ難民などにヒートテックをお届けしました。右下：ユニクロ欧州CEOの守川卓がパリ郊外のラクールヌーヴの地域住民の方々にヒートテックをお届けしました。

The Heart of LifeWear 活動

ヒートテックの寄贈先



*2025年3月31日現在の寄贈数。
ヒートテックのほか、気候によってはエアリズムの寄贈も含まれます。



PLST

日常を彩る プラステの「毎日服」

プラステは、「きちんとしたい時の『毎日服』」というブランドコンセプトを掲げる、ファーストリテイリンググループのブランドの一つです。着る人を美しく見せるためのシルエットやデザイン、着心地の良い素材やパターンなどの工夫を凝らし、着回し力抜群の上質な服を、お買い求めやすい価格帯で提供しています。仕事に出かける、人に会う、ハレの場に参加するといった、日常のあらゆるシーンで快適に過ごせるアイテムを揃えているため、幅広いお客様から人気が高まっています。

プラステの主力商品は、パンツです。シルエットと着心地にこだわった、PLUS STYLEパンツ(美脚パンツ)シリーズのスティックパンツは累計販売本数150万本を突破し、お客様から高い評価を得ています。2025年の春夏は、トレンド感満載のラップパンツも新たに登場。シャンプレー素材を使用し、光沢感があり、軽くて柔らかな着心地で、上品にデニムの雰囲気をお楽しみいただけます。

5月には、ハルノブムラタ(HARUNOBUMURATA)との初となるコラボレーションラインを発売する予定です。世界的なラグジュアリーブランドで経験を積み、女性の美しさを巧みに引き立てるデザインで注目を集める村田晴信氏とのコレクションでは、「大人の美学」をあなたの日常に。」をテーマに、上質で洗練された毎日のスタイルを提案します。これからも、さらに進化するプラステにご注目ください。



上期は過去最高の業績 LifeWearの可能性が さらに広がる

株式会社ファーストリテイリング取締役
グループ上席執行役員
CFO
岡崎 健

上期は大幅な増収増益、過去最高の業績

上期の連結業績は、売上収益1兆7,901億円(前年同期比12.0%増)、営業利益3,042億円(同18.3%増)、親会社の所有者に帰属する中間利益2,335億円(同19.2%増)と、大幅な増収増益となりました。日本、東南アジア・インド・豪州地区、北米、欧州のユニクロ事業が、大幅な増収増益と好調な業績となったことで、グループ全体で過去最高の業績を達成しました。

国内ユニクロ事業の上期の売上収益は5,415億円(同11.6%増)、営業利益は976億円(同26.4%増)と、大幅な増収増益となりました。気候に合わせて戦略的に商品とマーケティングを展開したことで、通年商品や防寒衣料の販売が好調でした。また、インバウンド販売も拡大しました。営業利益は、売上総利益率、売上高販管費比率が改善したことで、大幅な増益となりました。

海外ユニクロ事業の上期の売上収益は1兆141億円(同14.7%増)、営業利益は1,685億円(同11.7%増)と、大幅な増収増益となりました。特に、東南アジア・インド・豪州地区、北米、欧州は好調な業績が継続しています。北米と欧州は、冬物コア商品の販売が好調だったことに加え、新規出店した店舗が大成を収めたことで、大幅な増収増益となりました。東南アジア・インド・豪州地区は、プラトップ、イージーボトムスといった夏物商品、年間定番商品に加え、ヒートテックなどの冬物商品の販売も好調で、大幅な増収増益となりました。韓国は増収増益となりました。グレーターチャイナは、売上収

益は前年並み、営業利益は減益となりました。これは主に、中国大陸が減収減益となったことによります。市場全体で消費意欲が低下していることに加え、過去に比べて地域間の気温差が激しいなかで、各地のニーズに合った商品構成への対応が不十分だったことで販売に苦戦しました。

ジーユー事業の上期の売上収益は1,658億円(同3.9%増)、営業利益は139億円(同9.3%減)と、増収減益となりました。気候に左右されにくいマストトレンドのヒット商品の不足や、売れ筋商品の欠品により、既存店売上高は若干の増収にとどまりました。米国の旗艦店出店に伴う賃借料、本部費の増加などにより販管費が増加し、減益となりました。

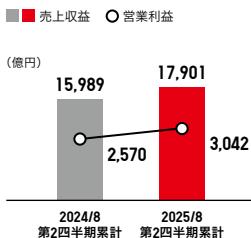
グローバルブランド事業の上期の売上収益は677億円(同2.3%減)と減収、営業利益は9億円(前年同期は17億円の赤字)と黒字化しました。これは主に、セオリー事業が販売に苦戦し減収となった一方で、すべての事業で売上総利益率と売上高販管費比率が改善したことによります。

LifeWearの可能性を最大限に実現するために、 「個店経営」「SKU管理」「グローバルワン・全員経営」を推進

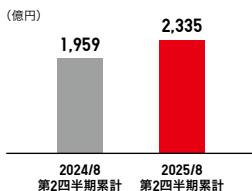
通期の業績予想は、売上収益3兆4,000億円(前期比9.5%増)、営業利益5,450億円(同8.8%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益4,100億円(同10.2%増)と、過去最高の業績を見込んでいます。上期の業績の上振れを反映し、通期の営業利益は150億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は250億円増額修正しました。日本、東南アジア、北米、欧州のユニクロ事業を中心に、業績拡大が継続することを見込んでいます。年間配当金は1株当たり480円、前期から80円の増配を予想しています。

今、世界中のお客様から、ユニクロの商品、店舗、サービスが高く評価され、LifeWearの可能性がさらに広がっていると実感しています。この可能性を最大限に実現するために、下期からは、これまで以上に「個店経営」「SKU管理」「グローバルワン・全員経営」を推進していきます。特に現在、事業の変革期にある、中国大陸のユニクロ事業、ジーユー事業では、商売の基本を徹底し、お客様を起点とした商売を実践することで、業績回復をめざします。また、グループ全体の急速な事業拡大を支えるために、全員が経営者の視点をもって実行できるよう、人材の育成もさらに強化していきます。

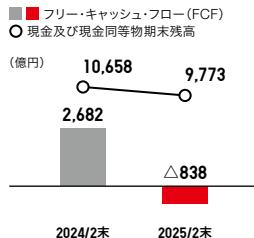
売上収益／営業利益



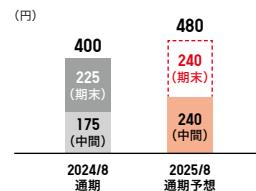
親会社の所有者に帰属する 中間利益



フリー・キャッシュ・フロー/ 現金及び現金同等物期末残高



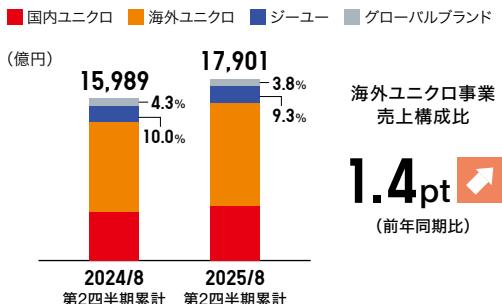
1株当たり配当金



保有する現金を3カ月超の定期預金や安全性の高い投資有価証券などの運用に振り向けられたため、現金、FCFが減少

セグメント別売上構成比

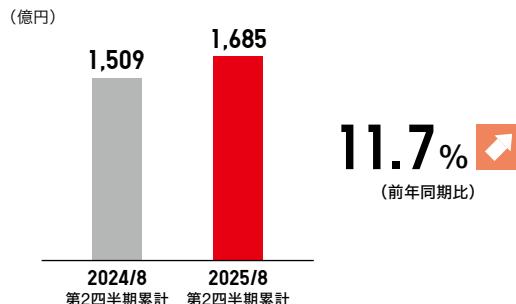
国内、海外ともにユニクロ事業が好調
事業拡大の好循環が生まれる



上期は特に、日本、東南アジア・インド・豪州地区、北米、欧州のユニクロ事業が大幅な増収と好調。欧米を中心に新規出店が大成功し、店舗がメディアとなり、顧客層拡大の好循環が生まれる。

海外ユニクロ事業：セグメント営業利益

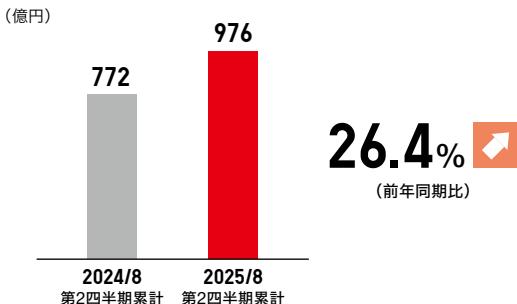
東南アジア・インド・豪州地区、
欧米が特に好調、大幅な増益を達成



東南アジア・インド・豪州地区、欧米は、大幅な増収増益。コア商品への支持が拡大し、欧米を中心に新規出店も大成功を収めた。中国大陸は減収減益、事業構造改革を進めることで業績の回復を図る。

国内ユニクロ事業：セグメント営業利益

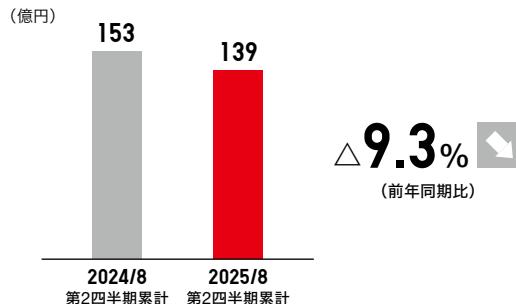
販売が好調で、大幅な増益を達成
商品、マーケティング戦略が奏功



気候に合わせて戦略的に商品、マーケティングを展開し、大幅な増収。値引率の低下により売上総利益率が改善。人件費比率や賃借料比率が低下したことで売上高販管費比率も改善し、大幅な増益を達成。

ジューユー事業：セグメント営業利益

米国旗艦店の出店費用を中心に
販管費が増加し、減益



気温に左右されにくいマストトレンドを捉えたヒット商品の不足や、売れ筋商品の欠品により、既存店売上高は若干の増収にとどまる。米国の旗艦店出店費用や広告宣伝費の増加により、営業利益は減益。

会社・株式データ (2025年2月28日現在)

会社概要

商号	株式会社ファーストリテイリング (FAST RETAILING CO., LTD.)		
本社	山口県山口市佐山10717番地1		
六本木本部	東京都港区赤坂9丁目7番1号 ミッドタウン・タワー		
有明本部	東京都江東区有明1丁目6番7号		
設立	1963年5月1日		
資本金	102億7,395万円		
事業の内容	株式または持分の所有によるグループ全体の事業活動の 支配・管理等		
連結従業員数	59,731名		

取締役・監査役

代表取締役会長兼社長	柳井 正	監査役(社外)	金子 圭子
取締役(社外)	服部 暢達 新宅 正明 大野 直竹 コルキャノンミツコ 車戸 城二 京谷 裕	常勤監査役	櫻谷 隆夫 森 正勝 水澤 真澄 田中 智大
取締役(社内)	岡崎 健 柳井 一海 柳井 康治		

株式の状況

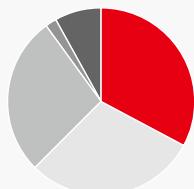
発行可能株式の総数	900,000,000株
発行済株式の総数(自己株式を含む)	318,220,968株
株主数(自己株式を含む)	26,726名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比(%)*
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	62,559	20.39
柳井 正	53,391	17.40
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	30,415	9.91
ティティワイマネージメントビーヴイ	15,930	5.19
柳井 康治	14,345	4.68
柳井 一海	14,345	4.68
有限会社Fight&Step	14,250	4.64
ステート・ストリート信託銀行	11,675	3.81
有限会社MASTERMIND	10,830	3.53
JP モルガン・チェース銀行	8,647	2.82

*自己株式を除いて算出

所有者別株式分布状況*



単元構成比	割合
個人・その他	32.86%
金融機関	29.86%
外国人	27.30%
事業会社・その他法人	1.93%
証券会社	8.04%

*自己株式は「個人・その他」に含む

株主メモ

上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場(証券コード 9983) 香港証券取引所 メインボード市場(証券コード 6288)
単元株式数	100株(東京証券取引所) 300HDR(香港証券取引所)
事業年度	9月1日～翌年8月31日
定時株主総会	11月下旬
剰余金の配当基準日	期末配当:8月末日 中間配当:2月末日
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載 URL www.fastretailing.com/jp/ir/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します)

■住所変更、買取請求、その他各種お手続きについて

証券会社等に口座をお持ちの株主様 口座を開設されている証券会社まで、お問い合わせください。

特別口座をお持ちの株主様 下記連絡先(三菱UFJ信託銀行 証券代行部)まで、お問い合わせください。

■未受領の配当金について

三菱UFJ信託銀行本支店まで、お問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

TEL 0120-232-711

9:00～17:00(土・日・祝日等を除く平日)

ウェブサイト掲載内容のご紹介

IR情報



経営方針、会社業績、統合報告書、ニュースリリースなど、投資家向けの情報をご覧いただけます。

サステナビリティ



ファーストリテイリンググループのサステナビリティ活動に関する情報をご覧いただけます。

サステナビリティデータブック



環境、社会分野を中心に重要な情報を整理。統合報告書を補完するツールとしてご利用いただけます。

IRメール配信サービス



ご登録いただくと、電子メールで、IRに関する最新ニュースをお知らせします。

ユニクロお客様窓口

TEL 0120-170-296 9:00～17:00(年中無休)